

学校便り

第292号
平成24年2月1日練馬区立光が丘第八小学校
校長 鈴木 隆志

林 光（はやし ひかる）さんを偲んで

校長 鈴木 隆志

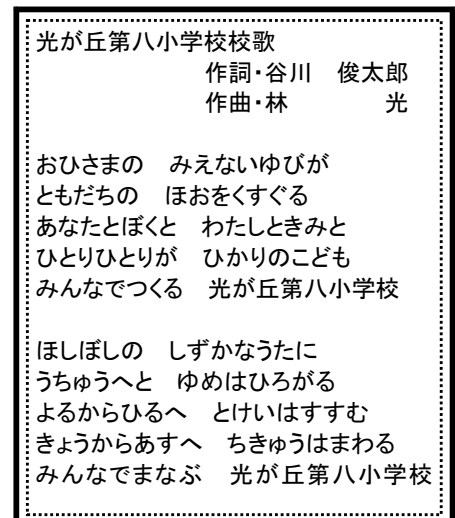
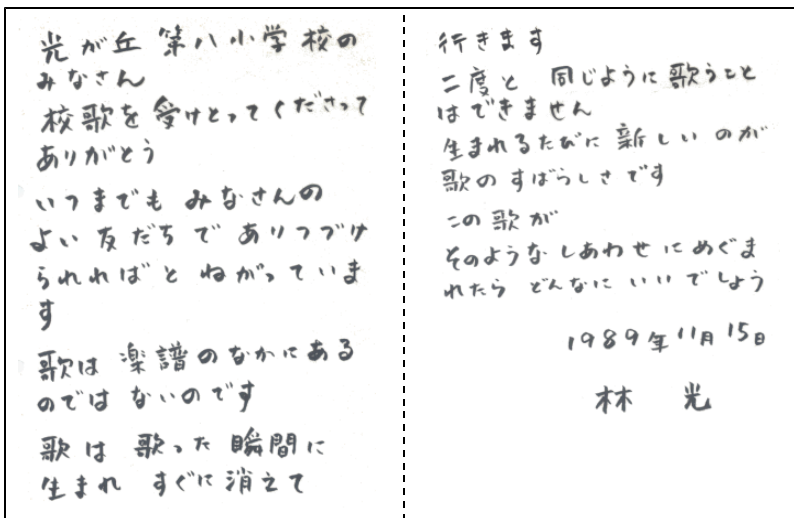
暦の上ではもうすぐ立春を迎えますが、まだまだ寒さの厳しい日が続いています。本校でも風邪やインフルエンザによる欠席者が増え始め、1月17日から三日間、6年生が学年閉鎖となりました。御家庭におかれましても、うがい、手洗いの励行、バランスのとれた食事、十分な睡眠時間の確保等、お子様の健康管理に引き続き御配慮いただきますよう、お願いいたします。

本校校歌の作曲者である林 光（はやし ひかる）さんが、1月5日、80年の生涯を閉じました。昨年9月下旬、散歩中に自宅前で倒れたときに頭を打ち、病院に運ばれましたが、意識不明の重体になっていました。それまで、お元気に御活躍をされていたことを思うと、無念でなりません。

林 光さんは1931年東京生まれ。二度の尾高賞をはじめ、芸術祭賞、モスクワ映画祭作曲賞、サントリー音楽賞など、数々の賞を受け、1996年には紫綬褒章も授与されています。

多作家として知られる林さんは、オーケストラ曲、器楽曲、オペラ、合唱曲、映画音楽等、幅広く御活躍されました。ピアノのための小品「メヌエット」（1940年）は、8歳のときの作品です。私もこの曲を聴く機会を得ましたが、若き才能に驚嘆するばかりでした。峯 陽（みね よう）さんの詞に曲をつけた合唱曲「ぼくらの町は川っぷち」（1964年）は、私自身、小学生のとき合唱祭で歌った思い出があります。映画では、新藤兼人監督「第五福竜丸」（1959年）など、たくさんの作品の中で、林さんの音楽を耳にしてきました。「国盗り物語」（1973年）、「花神」（1977年）、「山河燃ゆ」（1984年）と、NHK大河ドラマの音楽も懐かしく思い出されます。一方で、社会や政治と音楽とのかかわりも追求し続け、天安門事件後に「第三交響曲〈八月の正午に太陽は…〉」（1990年）、阪神・淡路大震災後には「ピアノ協奏曲〈悲歌〉」（1995年）を発表。合唱曲「原爆小景」（1971年）は20年以上にわたって毎年8月、東京混声合唱団と演奏を続けました。

偉大な作曲家・林 光さんが、本校校歌を作ってくださったのは、平成元年（1989年）のことです。本校開校記念式典には、直筆のメッセージも寄せていただきました。



林 光さんの校歌に寄せる「思い」をしっかりと受けとめ、大切に歌い継いでいきたいと思います。心より御冥福をお祈り申し上げます。